

令和7年度授業改善推進プラン

教科名 社 会

学年	指導上の課題	具体的な授業改善策（補充・発展等）
1年	・持ち物、課題や提出物の管理を苦手としている生徒がいる。 ・学習への意欲や規律について指導が必要な場面がある。 ・小学校段階での学習の定着に大きな個人差がある。 ・資料・グラフの読み取りなど、数字の捉え方や計算に苦手意識がある。	○小学校での既習事項についても、適宜授業で補充しながら生徒の苦手意識をなくしていく。 ○資料やグラフの読み取りについては、生徒のイメージしやすい内容と置き換える、映像資料など視聴覚教材を用いる等、理解につなげる。 ・アクティブラーニングを取り入れ、生徒が対話をしながら探究活動を行うようにする。また、グループについて段階を踏んで学習意欲、規律の両面の視点で構成を工夫する。資料やグラフを用いて自分の言葉でわかりやすく発表する活動を取り入れ、言語能力の向上を図る。 ・長期休業を利用した補習授業や復習課題を課し、既習単元の定着を図る。
2年	・1学級の人数が昨年より増加したため、グループワークを行う際の人数調整や教室環境の整備が必要である。 ・知識の定着において、生徒間の差が大きい。	○興味関心を高められるよう、授業の導入は本時の学習内容と関連付けた生徒の身近な事例や時事を取り入れて学習への意識を喚起する。 ○ICT機器など視聴覚教材を継続的に活用し、思考がスムーズになるような展開をつくる。 ○知識の定着を図るために、学んだ内容を他者に表現する機会を設定し、相互に確認し、深められるようにする。 ・単元の調整をしながら、アクティブラーニングを取り入れ、一人一人の生徒の活動量を調整し、主体的に対話して発表する活動を行う。 ・長期休業等において、基礎的な問題のワーク等の課題を出し、小テストを実施し達成感をもたせつつ、知識の定着を図る。
3年	・課題に真摯に向き合うが、既習の知識が不十分で、思考につなげることに指導上の課題がある。 ・生徒間で、思考を議論し、広げることが不得手である。 ・単元を身近な生活や現代社会とつながられる生徒は限られる。	○時事問題を発表させたり提示したりし、興味・関心を喚起することを通して、単元への理解につなげる指導を行う。 ○ICT機器等を活用する中で、発表等を通じた演習の場を日常とし、多面的多角的な思考を深めさせる。 ○既習事項を生かしたり、理由・根拠を明確にした発表や議論を行ったりする指導を重ねることで、構想することをねらいとする。

○はすぐに取り組むこと